

**研究拠点形成事業**  
**平成 28 年度 実施報告書**  
**(平成 28 年度採択課題用)**  
**B.アジア・アフリカ学術基盤形成型**

**1. 拠点機関**

日本側拠点機関：	早稲田大学
(カンボジア) 拠点機関：	ノートン大学
(ベトナム) 拠点機関：	ホーチミン市工業大学
(ラオス) 拠点機関：	ラオス国立大学
(タイ) 拠点機関：	シラパコーン大学
(ミャンマー) 拠点機関：	マンダレー工科大学

**2. 研究交流課題名**

(和文)： メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成

(交流分野： 文化財科学 )

(英文)： Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries

(交流分野： Heritage Science )

研究交流課題に係るホームページ：<http://mekong.lah-waseda.jp>

**3. 採用期間**

平成 28 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

(1 年度目)

**4. 実施体制****日本側実施組織**

拠点機関：早稲田大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：早稲田大学・総長・鎌田薫

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：早稲田大学理工学術院・准教授・小岩正樹

協力機関：東京大学、筑波大学、名城大学、神戸芸術工科大学、奈良文化財研究所、東京文化財研究所

事務組織：早稲田大学国際部国際課 理工学術院研究総合支援課

**相手国側実施組織** (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：カンボジア

拠点機関：(英文) Norton University

(和文) ノートン大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Architecture and Urbanism Department,  
Norton University・Honor Head (Professor)・SO Sokuntheary

協力機関：(英文) APSARA National Authority (Authority for Protection and  
Management of Angkor and the Region of Siem Reap)

(和文) アプサラ機構

(英文) Ministry of Culture and Fine Arts

(和文) 文化芸術省

(2) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Ho Chi Minh City University of Technology

(和文) ホーチミン市工業大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) VJIT Project, Ho Chi Minh City  
University of Technology・Chief Officer (Lecturer)・LE Vinh An

協力機関：(英文) Hue Monuments Conservation Center

(和文) フエ遺跡保存センター

(3) 国名：ラオス

拠点機関：(英文) National University of Laos

(和文) ラオス国立大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Department of Urban Environment,  
Faculty of Architecture, National University of Laos・Head (Associate Professor)・  
CHITHPANYA Soukanh

協力機関：(英文) World Heritage Site Office of Vat Phou

(和文) ワット・プー世界遺産事務所

(4) 国名：タイ

拠点機関：(英文) Silpakorn University

(和文) シラパコーン大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Architecture, Silpakorn  
University・Assistant Professor・CHATURAWONG Chotima

協力機関：(英文) Chulalongkorn University

(和文) チュラロンコン大学

(英文) Ministry of Culture

(和文) 文化省

(5) 国名：ミャンマー

拠点機関：(英文) Mandalay Technological University

(和文) マンダレー工科大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)・Su Su

## 5. 研究交流目標

### 5-1. 全期間を通じた研究交流目標

日本側コーディネーターらは、これまでにカンボジアやベトナムを中心とした文化遺産の調査研究・保存修復活動を20年以上に亘り継続しており、危機に瀕した文化遺産の救済し、地域の復興に寄与したことにより、高い評価を得てきた活動実績がある。平成25年度～平成27年度までの研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成」によって、コーディネーターらの活動実績が、これまでの二国間交流によるものではなく、より広く、また、現代世界、とりわけ発展途上国が共通に直面している文化遺産の保存活用を、地域の復興発展、平和構築等に役立てるためには、より広範かつ多角的な地域間交流・協力関係が必要かつ必須な枠組であることが、各国、各地域の文化遺産サイトの相互の訪問と度重なる協議によって確認された。早稲田大学を含めた各国の拠点機関のコーディネーター及び参加研究者らは、そのような認識を共有しており、各々、メコン川流域国相互間の文化遺産保存活用事業推進のための協力を実りあるものにするためには、この地域に特有な気候風土、歴史文化的条件、地理的な関係を十分に踏まえた文化遺産保存活用学の形成が不可欠であることも確認しあってきたところである。

しかし一方で、当流域各国においては、文化遺産保存活用への期待が、かつてないほど高まりつつあることは疑いえないことであるが、それは、世界遺産リスト掲載へ向けてのものであって、通常のこの分野の基礎的・理論的活動への支援は、政府、民間とも、未だに極めて乏しいことが現状であると言わざるを得ず、それを背景に、平成25年度からの3年間の事業期間中に実施したラオス世界遺産ワット・プー(チャンパサック)での国際セミナー・ワークショップや、カンボジア世界遺産アンコール遺跡(シェムリアップ)において浮上してきた課題は、コーディネーターらの意図がメコン川流域国で実現し根付いていくためには、さらなる枠組の工夫が必要であり、世界遺産とその遺産に隣接する都市が、その世界遺産に相応しい都市―世界遺産都市―であるためにはどうあるべきか、という議論を出発点として、各国の学術・研究機関、政府機関、現地修復オフィス、地域住民、訪問観光客らが参加する保存修復現場と連動した共同研究、セミナーを開催し、研究者相互の交流と相手国内での本分野に対する認知度・重要性を広め、本研究拠点、日本が中心となり、定例国際会議制度(文化遺産保存活用・古都サミット)の設立と、メコン川流域国の複雑な地理的・文化的背景を汲み取ったアジア発の文化遺産保存活用の方法とその「学」の確立へ向けた拠点化を行うことを目標とする。

## 5-2. 平成28年度研究交流目標

### ＜研究協力体制の構築＞

文化遺産の保存活用をめぐる各国の固有かつ主要な研究課題に対する日本と各国拠点機関の二国間協力及び平成27年までに構築された研究機関及び研究者相互のネットワークを基礎として、メコン川流域全体に共通して取り組むべき研究協力体制を同時に構築する。

平成28年度は、各国の拠点機関及び協力機関との研究協力体制を再確認し、共同研究及びセミナーを通して、各国の文化遺産保存修復現場と連携したダイナミックな協力ネットワークを構築することを目指す。

### ＜学術的観点＞

各国各地域とも、各々の文化遺産の保存および活用方法には伝統的、社会的特質がある。それを学術的に明らかにするとともに、特に保存と活用の関係について、共通する考え方や手法について議論する中で、メコン川流域に共通する文化遺産の保存活用学の構築に向けて、相互協力の方向を集約する。また、二大古代文明の中国とインドに挟まれたメコン川流域の変遷と現在の課題を継続して検討し、その歴史的・文化的広がり的重要性を明らかにし、平成25年度から平成27年度までに検討した全体的問題点・課題点をさらに深化・発展させて検討することを目指す。

平成28年度は、文化遺産の保存活用学の創成と当該学問領域の定期的なシンポジウム開催の拠点形成の第1年度目として、ワークショップを組み合わせたセミナーをベトナム・フエで開催し、メコン川流域共通の文化的背景と地域固有の文化的背景の比較を通じた学術交流と、その成果に基づいた文化遺産の保存活用の可能性を明らかにすることを目指す。

### ＜若手研究者育成＞

研究交流に若手研究者の参加を積極的に推進し、調査現場やセミナー等での議論、さらにフォーラム誌の発行企画、及びそこへの投稿を通して、彼らの育成をはかる。

平成28年度は、国際学会での発表をはじめとして、多方面から文化遺産の保存活用に携わる若手人材の参加を促し、文化遺産の保存活用学の形成を通じた人的ネットワーク形成と多角的視点の養成、そして実践的な学術研究活動発表の場の提供を行うことを目指す。

### ＜その他（社会貢献や独自の目的等）＞

定期的なセミナー、フォーラム、ワークショップ誌の発行を中核として、各国の固有性と地域の共通性の課題に、各々の社会に意識を高めることを目標とする。特に、各セミナー成果のオンライン公開をはじめとして、本事業の内容を広く社会一般に公開することで、文化遺産の現状、課題、及びその可能性を認知してもらえる機会を設けることを目指す。

## 6. 平成28年度研究交流成果

（交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。）

### 6-1 研究協力体制の構築状況

本事業では、各国の拠点機関及び協力機関とのこれまでの研究協力体制を再確認し、共同研究及びセミナーを通して、各国の文化遺産保存修復現場と連携したダイナミックな協力ネットワークを構築することを目指して活動し、主に以下の成果を得た。

平成28年度は、具体的には、通年で参加相手国との定期的な共同研究交流を図りつつ、ベトナムでの1回のセミナー（整理番号S-1：2016年9月開催）において、参加国側と日本側、及び参加国間同士の相互連携の体制を強化した。

カンボジアでは、アンコール遺跡保存修復事業への技術的支援等の協力を通じて、ユネスコ、現地アプサラ機構及び政府機関、そして各国の保存修復チームとの間で各種の国際会議や個別会議で関係強化の確認を行った。ベトナムでは、日本側拠点である早稲田大学ユネスコ世界遺産研究所が現地古都フエ遺跡保存センターと協働して進めてきたベトナム・フエ王宮の調査研究における成果集約・検討作業とベトナムの専門家と行政のスタッフのみならず、フエ・キムロン地区の小学生及び住民を含めて問題を共有し、より確固な協力体制を構築しつつある。タイにおいても、次年度セミナー開催へ向けた現地機関相互の協力要請を行い、日本側と現地側機関相互の協力ネットワークを構築した。さらに、ラオス及びミャンマーでは、適宜、相手国コーディネーターを中心とした事業についての情報を交換し、今後の本事業における双方の役割と協力体制の可能性を検討した。

## 6-2 学術面の成果

本事業では、共同研究、セミナーさらに個別の研究者間の交流を通じて、各国各地域の文化遺産の保存および活用方法の伝統的、社会的特質を学術的に明らかにすることを目指し、平成28年度は文化遺産の保存活用学の創成と当該学問領域の定例国際会議制度開催の拠点形成の第1年度目として、主に以下の成果を得た。

カンボジアでは、アンコール遺跡保存修復事業への継続的な技術協力を行うことで、高度な技術力の統合が求められる保存修復手法確立のための基礎的な素地が整いつつある。また、シムリアップ歴史的街区の防災についての調査研究も継続し、地域コミュニティを土台とした文化遺産の防災ネットワーク構築のための具体的な基本計画案を作成した。さらに、当事業でも継続して協力を行ってきたカンボジアのサンボー・プレイ・クック遺跡群の保存活用では、中心祠堂の保存修復工事が完了したのを受けて、クメール建築の初期煉瓦遺構の保存修復に関する様々な基礎的資料と成果の集約を行った。

ベトナムでは、フエの歴史的建造物群の調査研究の成果集約を現地機関と協力して進めつつ、保存修復現場との連携により保存修復技術・方法の技術移転や専門家間の交流を行い、セミナーにおいて、各機関の代表者らによる情報共有と意見交換を行うことで、他のメコン流域国との比較を通して、特にベトナム・フエの文化遺産の特質と活用方法が明らかになりつつある。さらに、文化遺産の教育活動への取り組みの可能性についてもワークショップを行い、その重要性を各機関と共有した。特に、この成果については、平成29年度の日本建築学会の大会にて発表報告予定である。

タイでは、アユタヤの遺跡の研究を現地学術機関と共同で進めることで、次年度のセミナー開催へ向けた学術的な取り組みの基礎的なまとめを行うことができた。

ラオス及びミャンマーでは、随時調査研究の進捗情報の共有や保存修復事業レポート提出等を依頼し情報共有につとめるとともに、特にミャンマーにおいては、次年度以降の本事業の課題やセミナー開催のための基礎的な情報収集を行った。

### 6-3 若手研究者育成

平成28年度は、国際学会での発表をはじめとして、多方面から文化遺産の保存活用に携わる若手人材の参加を促し、文化遺産の保存活用学の形成を通じた人的ネットワーク形成と多角的視点の養成、そして実践的な学術研究活動発表の場の提供を行うことを目指し、2016年5月にスリランカで開催されたアジア学術会議や2016年8月の建築学会大会等での若手研究者の発表を推進しつつ、本事業でのセミナー・プロシーディングへの掲載など、積極的に若手研究者の活躍の場を提供した。また、カンボジアのサンポー・プレイ・クック遺跡群においては、他事業との共同で、現地への若手研究者派遣による学生への技術指導等も行い、様々な育成の機会を提供した。(本事業外の予算による派遣で、2名を2016年8月に2週間派遣)

### 6-4 その他(社会貢献や独自の目的等)

セミナー・プロシーディング及び調査研究成果等の報告集の発行を中核として、各々の社会に意識を高めることを目標として、本事業の内容を広く社会一般に公開することで、文化遺産の現状、課題、及びその可能性を認知してもらえる機会を設けることを継続して行った。本年度は特に、本事業のこれまでの成果を集約し、今後の方針を再検討した成果を掲載した報告書を作成し、カンボジアをはじめとする国際会議の場で広く配布することで、本事業の認知度とともに、各文化遺産保存活用に対する意識を高めることを図った。

また、タイの参加研究者による日本語の建築史関連書籍のタイ語出版化の実現へ向けた取り組みなど、メコン文化遺産の中心としつつもアジア全体を視野に入れた多角的な視点の養成により、文化遺産保存活用への問いかけと探求の姿勢が少しずつ根付いてきているといえる。

### 6-5 今後の課題・問題点

各国の文化遺産保存活用への取り組みは、以前にも増して比重が大きくなっていると言えるが、未だに十分であるとは言いがたく、取り組みの姿勢や政策には偏りが散見されるのが実情であり、こうした状況を改善し、各国が足並みを揃えて定例国際会議制度の実施に向けて取り組むためにも、比較的メコン流域国の中では当該分野において比較的先進的なタイで開催予定のセミナーが重要であるといえる。また、本事業3年度目に計画をしているミャンマーでのセミナー開催へ向けて、基礎的情報の共有と国内の文化遺産の状況の把握を通して、ミャンマー側とのより親密な協力関係の構築が課題として挙げられる。

### 6-6 本研究交流事業により発表された論文等

- |                            |    |
|----------------------------|----|
| (1) 平成28年度に学術雑誌等に発表した論文・著書 | 5本 |
| うち、相手国参加研究者との共著            | 0本 |
| (2) 平成28年度の国際会議における発表      | 4件 |
| うち、相手国参加研究者との共同発表          | 1件 |

(3) 平成28年度の国内学会・シンポジウム等における発表 3件

うち、相手国参加研究者との共同発表 0件

(※ 「本事業名が明記されているもの」を計上・記入してください。)

(※ 詳細は別紙「論文リスト」に記入してください。)

## 7. 平成28年度研究交流実績状況

### 7-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成28年度	研究終了年度	平成30年度
研究課題名		(和文) メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成			
		(英文) Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries			
日本側代表者 氏名・所属・職		(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授			
		(英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor			
相手国側代表者 氏名・所属・職		(英文) (カンボジア) SO Sokuntheary・Architecture and Urbanism Department, Norton University・Honor Head (Professor)			
		(ベトナム) LE Vinh An・VJIT Project, Ho Chi Minh City University of Technology・Chief Officer (Lecturer)			
		(ラオス) CHITHPANYA Soukanh・Department of Urban Environment, Faculty of Architecture, National University of Laos・Head (Associate Professor)			
		(タイ) CHATURAWONG Chotima・Faculty of Architecture, Silpakorn University・Assistant Professor			
		(ミャンマー) Su Su, Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)			
28度の研究交流活動		日本側コーディネーター及び主要参加研究者が、継続して各国の中心的課題である文化遺産の現場を、当該国コーディネーターらと共同で調査研究し、各々が直面する課題を明らかにすることを目的に、平成28年度は、主にカンボジア、ベトナム、タイの参加研究者と現地にて共同研究を行い、保存修復現場と協力した現地専門家や若手研究者への研修の協力や、セミナー開催へ向けた文化遺産の現況の収集や展示品等への助言、さらに保存活用の現代的課題の協議・検討を重点的に進めた。また、ラオス、ミャンマーの参加研究者とも随時調査研究の進捗情報の共有や保存修復事業レポート提出等を依頼することで、研究体制の継続と次年度以降の本事業の課題やセミナー開催のための基礎的な情報収集を行った。			

	<p>当該事業年度の相手国との交流は、メールによるやりとりを定期的に行いつつ、相手国への派遣を行った。カンボジアへは全期間を通して延べ10名を各人平均1週間程度派遣、ベトナムへは第3四半期を除く期間に本事業外の予算で延べ9名を各人平均1週間派遣、ラオスへは1名を2017年1月に4日間派遣、タイへは第3四半期を除く期間に延べ4名を各人平均4日程度派遣、ミャンマーへは派遣を実施しなかったが、メールによる情報共有及び研究成果レポート共有を実施した。</p> <p>以上のように、今年度においても前年度までの成果を踏まえつつ、課題の検討と拠点形成のための情報共有と関係強化を行った。</p>
<p>28年度の研究交流活動から得られた成果</p>	<p>「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成」の研究課題の各国個別の具体的な課題の明確化の一つとして、本事業の枠組を踏まえつつ、中長期的な相互の情報共有と比較検討の取り組みが必要であることが明らかとなった。</p> <p>また、ベトナムのセミナーと連携した研究成果より、フエ王宮に隣接するキムロン地区において、伝統的地区のランドスケープの消失など、観光開発の発展により明らかになりつつある世界遺産保存活用のための課題が明らかとなった。</p> <p>さらに、定例国際会議制度実現の基盤構築の一環として、セミナー成果の統合を通して、共通の課題を解決するための協力体制の継続とさらなる強化の同意を得ることができた。</p> <p>また、メコン川流域の中国エリアについては、これまで主に日本側コーディネーターによる視察に留めていたが、中国人専門家の参加が得られたので、今後議論を深めていきたい。</p>



7-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「フエの歴史的建造物群の文化遺産としての特質と世界遺産都市フエの課題—メコン流域国の連携協力について—」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Characteristics of Historical Monuments in Hue as Cultural Heritage and Issues of World Heritage City Hue - Cooperation of Mekong Basin Countries -”
開催期間	平成28年 9月15日 ~ 平成28年 9月17日 (3日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ベトナム、フエ、阮朝王宮歴史的建造物群 (英文) Vietnam, Hue, Complex of Hue Monuments of the Nguyen dynasty
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 小岩正樹・早稲田大学理工学術院・准教授 (英文) KOIWA Masaki・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文) LE Vinh An・VJIT Project, Ho Chi Minh City University of Technology・Chief Officer (Lecturer) PHAN Thanh Hai・Hue Monuments Conservation Center・General Director

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (ベトナム)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	3/6	2
カンボジア 〈人/人日〉	1/3	0
ベトナム 〈人/人日〉	2/6	15
ラオス 〈人/人日〉	0/0	0
タイ 〈人/人日〉	0/0	0
ミャンマー 〈人/人日〉	0/0	0
合計 〈人/人日〉	6/15	17

A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>ベトナム・フエ阮朝王宮都城址と近郊に展開する皇帝廟、寺院、上流住宅などの歴史的建造物群に関するこれまでの調査と保存修復工事の成果を統括的に、フエの文化遺産の保存技術の特性としてまとめ、近年の観光開発の発展により明らかになりつつある世界遺産保存活用のための課題を明らかにする。</p>																	
<p>セミナーの成果</p>	<p>早稲田大学ユネスコ世界遺産研究所及びフエ古都遺跡保存センターが協働で進めてきたフエの歴史的建造物群の調査研究の成果集約の課題、現地政府機関をはじめとした各所との情報共有・活用等の体制について検討し、さらなる連携強化を行った。また、カンボジアからの招聘者との交流により、煉瓦造・石造・木造の文化遺産保存活用についての情報を広く相互共有し、相互理解を深め、今後の研究協力体制の確認を行った。</p> <p>さらに、保存修復事業がほぼ完了したフエ・キムロン地区の延福長公主祠で、当該地域の小学校の協力の下、セミナーの一環として初等教育における文化遺産の保存活用を考えるワークショップを実施し、地域の教育活動と文化遺産保存活用の接点を探った。</p>																	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>早稲田大学国際部、理工学術院理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は、相手国責任者の所属大学であるホーチミン市工業大学と早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および理工学術院建築学科小岩正樹研究室（建築史研究室）がその緊密な協力のもとに担当した。</p>																	
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">内容</th> <th style="width: 30%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外国旅費（日本側・他予算等による参加）</td> <td style="text-align: right;">0 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費（日本以外かつベトナム除く）</td> <td style="text-align: right;">81,620 円</td> </tr> <tr> <td>謝金</td> <td style="text-align: right;">0 円</td> </tr> <tr> <td>備品・消耗品購入費</td> <td style="text-align: right;">78,794 円</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td style="text-align: right;">9,200 円</td> </tr> <tr> <td>外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td style="text-align: right;">6,529 円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;"><b>合計</b></td> <td style="text-align: right;"><b>176,143 円</b></td> </tr> </tbody> </table>	内容	金額	外国旅費（日本側・他予算等による参加）	0 円	外国旅費（日本以外かつベトナム除く）	81,620 円	謝金	0 円	備品・消耗品購入費	78,794 円	その他経費	9,200 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	6,529 円	<b>合計</b>	<b>176,143 円</b>
内容	金額																	
外国旅費（日本側・他予算等による参加）	0 円																	
外国旅費（日本以外かつベトナム除く）	81,620 円																	
謝金	0 円																	
備品・消耗品購入費	78,794 円																	
その他経費	9,200 円																	
外国旅費・謝金等に係る消費税	6,529 円																	
<b>合計</b>	<b>176,143 円</b>																	
	<p>(ベトナム) 側</p>	<p>内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 100%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナー会場及び設営提供</td> </tr> <tr> <td>セミナー時の同時通訳等</td> </tr> <tr> <td>ベトナム国内研究者旅費</td> </tr> </tbody> </table>	内容	セミナー会場及び設営提供	セミナー時の同時通訳等	ベトナム国内研究者旅費												
内容																		
セミナー会場及び設営提供																		
セミナー時の同時通訳等																		
ベトナム国内研究者旅費																		

7-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

共同研究、セミナー以外でどのような交流（日本国内の交流を含む）を行ったか記入してください。

本年度は実施していない。

7-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応

本事業は該当しない。

8. 平成 28 年度研究交流実績総人数・人日数

8-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元	四半期	日本	カンボジア	ベトナム	ラオス	タイ	ミャンマー	スリランカ (第三国)	合計
日本	1		2/ 8 ( 1/ 7 )	( 2/ 16 )	( )	1/ 4 ( )	( )	2/ 17 ( 1/ 7 )	5/ 29 ( 4/ 30 )
	2		1/ 10 ( 1/ 5 )	( 4/ 30 )	( )	2/ 8 ( )	( )	( )	3/ 18 ( 5/ 35 )
	3		2/ 23 ( 1/ 7 )	( )	( 1/ 9 )	( )	( )	( )	2/ 23 ( 2/ 16 )
	4		5/ 36 ( 3/ 19 )	( 3/ 17 )	1/ 4 ( )	1/ 5 ( )	( )	( )	7/ 45 ( 6/ 36 )
	計		10/ 77 ( 6/ 38 )	0/ 0 ( 9/ 63 )	1/ 4 ( 1/ 9 )	4/ 17 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	2/ 17 ( 1/ 7 )	17/ 115 ( 17/ 117 )
カンボジア	1	( )		( )	( )	( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	2	( )		1/ 5 ( )	( )	( )	( )	( )	1/ 5 ( 0/ 0 )
	3	( )		( )	( )	( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	4	( )		( )	( )	( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	計	0/ 0 ( 0/ 0 )		1/ 5 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	1/ 5 ( 0/ 0 )
ベトナム	1	( )	( )		( )	( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	2	( )	( )		( )	( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	3	( )	( )		( )	( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	4	( )	( )		( )	( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	計	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )		0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )
ラオス	1	( )	( )	( )		( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	2	( )	( )	( )		( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	3	( )	( )	( )		( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	4	( )	( )	( )		( )	( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	計	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )		0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )
タイ	1	( )	( )	( )	( )		( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	2	( )	( )	( )	( )		( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	3	( )	( )	( )	( )		( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	4	( )	( )	( )	( )		( )	( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	計	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )		0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )
ミャンマー	1	( )	( )	( )	( )	( )		( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	2	( )	( )	( )	( )	( )		( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	3	( )	( )	( )	( )	( )		( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	4	( )	( )	( )	( )	( )		( )	0/ 0 ( 0/ 0 )
	計	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )		0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )
スリランカ (第三国)	1	( )	( )	( )	( )	( )	( )		0/ 0 ( 0/ 0 )
	2	( )	( )	( )	( )	( )	( )		0/ 0 ( 0/ 0 )
	3	( )	( )	( )	( )	( )	( )		0/ 0 ( 0/ 0 )
	4	( )	( )	( )	( )	( )	( )		0/ 0 ( 0/ 0 )
	計	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )		0/ 0 ( 0/ 0 )
合計	1	0/ 0 ( 0/ 0 )	2/ 8 ( 1/ 7 )	0/ 0 ( 2/ 16 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	1/ 4 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	2/ 17 ( 1/ 7 )	5/ 29 ( 4/ 30 )
	2	0/ 0 ( 0/ 0 )	1/ 10 ( 1/ 5 )	1/ 5 ( 4/ 30 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	2/ 8 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	4/ 23 ( 5/ 35 )
	3	0/ 0 ( 0/ 0 )	2/ 23 ( 1/ 7 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 1/ 9 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	2/ 23 ( 2/ 16 )
	4	0/ 0 ( 0/ 0 )	5/ 36 ( 3/ 19 )	0/ 0 ( 3/ 17 )	1/ 4 ( 0/ 0 )	1/ 5 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	7/ 45 ( 6/ 36 )
	計	0/ 0 ( 0/ 0 )	10/ 77 ( 6/ 38 )	1/ 5 ( 9/ 63 )	1/ 4 ( 1/ 9 )	4/ 17 ( 0/ 0 )	0/ 0 ( 0/ 0 )	2/ 17 ( 1/ 7 )	18/ 120 ( 17/ 117 )

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

### 8-2 国内での交流実績

1	2	3	4	合計
( )	2/8 ( 2/6 )	( 1/2 )	( )	2/8 ( 3/8 )

### 9. 平成 28 年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費 (直接経費)	国内旅費	202,760	
	外国旅費	3,994,529	
	謝金	0	
	備品・消耗品 購入費	168,434	
	その他の経費	1,220,543	
	不課税取引・ 非課税取引に 係る消費税	413,734	
	計	6,000,000	
間接経費		1,800,000	直接経費の 30%に相当する額とすること。
合 計		7,800,000	

### 10. 平成 28 年度相手国マッチングファンド使用額

本事業は該当しない。